

2016年6月6日

札幌チャレラジオ通信 第22回

大山：三角山放送局をお聴きの皆さんこんにちは。札幌チャレラジオ通信です。
私はパーソナリティーのNPO法人札幌チャレンジドの大山です。よろしくお願いします。
札幌チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある人がITでマザル、ハタラク、拓き合う社会
を作りたい、との思いで活動をしているNPO法人札幌チャレンジドが、毎週月曜日のこの
時間に札幌チャレンジドの活動内容をお伝えする番組です。2016年の1年間放送します。
今週は就労移行支援担当の大山と赤坂です。赤坂さんよろしくお願いします。

赤坂：はい、よろしくお願いします。

大山：赤坂さんは2回目の登場ということで、まだ緊張感がちょっと残っていますが。

赤坂：そうですね。

大山：大丈夫でしょうか？

赤坂：はい、大丈夫です。

大山：はい。今日のゲストは札幌チャレンジドの就労移行支援サービスを利用されている木
村さんと阿部さんです。こんにちは、よろしくお願いします。

木村：こんにちは。

阿部：よろしくお願いします。

大山：よろしくお願いします。今日はですね、お二人に札幌チャレンジドの就労移行支援
ってどんなところなのかなあ、どんな雰囲気なのかなあということを利用して
いる方の立場からですね、教えていただきたいと思います。

自己紹介に入る前にですね、今ですね皆さんとても緊張していると言いながら
ですね、とてもニコニコしております。実は私たちここに来るのにですね、JRの札幌
駅から琴似駅までですね、4、5分乗って来るのですけれども、たった4、5分
の間にですね、とても盛り上がった話がありまして。

阿部：そうですね。

大山：今日の赤坂さんの髪型、朝おかしかったよねって話になりましたですね。阿部さんも木村さんも気がついてたということですね。

阿部：うん、そうですね。

大山：それをではご本人に伝えたのですかという、いや伝える必要…阿部さんは伝えてない。

阿部：伝える必要というか、伝える暇がなかった感じで、そうですね。

大山：暇がなかったんだね。

阿部・木村：忙しそうでしたし。

大山：忙しそうだったんですね。

赤坂：本当ですか？

大山：本人には伝えないのだろうか、では誰に伝えるのだろうか。なんか仲間同士で髪形の形変だよ、みたいなことを言っていたという。

阿部：髪曲がってますよ、みたいな感じです。

大山：そうなんですね。盛り上がってますね。

阿部：盛り上がってました。

大山：私は隣に座って仕事をしているのですがけれども、赤坂さんの髪型がちょっと右側がちょっと跳ねていたということで、私、左側に座ってるので気がつかなくてすみません。上司なのに。

赤坂：いえいえ、社会人として本当に恥ずかしい限りです。

大山：このブースに入ってからですね、その話で盛り上がってまして。緊張していたはず

なのでですけど皆さんニコニコニコしております、はい。

阿部：そうですね、はい。

大山：はい、では和やかに行きたいと思います。ではですね、木村さんと阿部さんに自己紹介をお願いしたいのですけれども、まず木村さんからですね、お願いします。

木村：はい、分かりました。私、木村は、昨年の12月に札幌チャレンジドの就労移行支援の方に入りまして。今で6ヶ月ですかね、経ちました。

赤坂：そうですね。

大山：半年位になりましたね。

木村：日々パソコンのスキルだとか、コミュニケーション能力の向上などでいろいろ頑張っております。

大山：はい、ありがとうございます。では阿部さんもお願いします。

阿部：はい、私は札幌チャレには1回、3年前ですかね。3年前に1回、1期とか、今と違いますけども2期生という感じで来まして。で、1回就職して、また3月から利用させていただいていますので、合計すると1年とちょっとくらいな。

大山：そうですね。

阿部：感じですね、それくらいですね。今はまた就職という感じですけど、これからまた資格とかいろいろパソコンの関係のを取れたらいいなあみたいな感じで思っております。

大山：はい、ありがとうございます。お二人ともすっかり移行支援のメンバーさん、今ですね12、3人いらっしゃる、13人か、いらっしゃるのですけれども慣れてですね、仲良くワイワイとですね皆さん。訓練といってもですね、そんな苛酷な、訓練というと苛酷なイメージがありますけれども、いろいろな講習というかプログラムを受けていただいていますね。

就労移行支援の事業所って札幌の中で今、今年は80ヶ所位あるのですよね。去年の段階でも70ヶ所位あったのですけど。お二人が札幌チャレンジドの移行支援を利用しようと思

った理由ですね、それを教えていただけますか？なにか決め手になったものなどありましたか？木村さんどうでしょうか。

木村：そうですね、私は相談室たすくってという相談室の方と一緒に調べたのですが、まず駅から近い所を探しました。駅から近い所を3ヶ所位見つけたのですが、どこもパソコンの講習をやってるところだったので、札チャレにしようと思ったきっかけというのは、雰囲気がとても良かったのですよね。メンバーさんとか、スタッフさんとの。あとコミュニケーションとかの講習もありますよね。その講習も大変良かったのでここがいいなあと思いました。

大山：最初の頃はそうですね、コミュニケーション講習がとても気になると言ってですね、おっしゃってましたよね。はい、ありがとうございます。阿部さんはいかがですか？

阿部：そうですね、私は最初利用する時には、当別には、当別に住んでいるのですが、当別にはそういうパソコン関係の就労移行支援っていうのが無かったので、それをちょっと相談、当別町にある nanakamado という障がい者の相談センターみたいなところに行って相談していろいろ、いろいろというか札チャレしか見てないので、札チャレを見てパソコン使う感じだしいかなって思って利用するって感じで利用を決めたという感じですかね。

大山：阿部さんは前回そうですね、最初に利用した時に日商 PC 検定ですね、あの時は文書作成3級ですか。wordの方ですね。

阿部：そうです、wordですね、はい。

大山：取ってですね、それで就職なさってますよね。

阿部：そうですね。

大山：今、木村さんもですね、excelの方の3級を受験に向けて頑張ってますよね。

木村：はい。

大山：はい、ありがとうございます。お二人ともパソコンを得意なので、それもさらにもっとね、使いたいということもちょっと決め手にもなったような感じですよ。

阿部：そうですね、はい。

大山：はい、ありがとうございます。後ですね、移行支援の訓練プログラムというか講習にはたくさん種類が、いろいろな種類があると思うのですがけれども、今お二人で自分にとって一番役に立ってるなあとか、今の段階で結構ですので、なにか勉強をされていてためになってるなあと思うものがあったら教えていただきたいんですけど。まず木村さんからお願いできますか？

木村：そうですね。私としてはPC講習が一番だと思うのですが、それ以外ではコミュニケーションが結構役に立ってると思います。

大山：コミュニケーション講習、はい。

木村：自分自身を見つめ直したりとか、他人との関わりあい方とかを学んだりして、とても勉強になっています。

大山：そうなんですね。土井先生には4月でしたかね、出ていただいて。また土井先生にもお願いしたいというね、コミュニケーションの土井先生なのですけどね。そういうお声もいただけてますのでね。私たちも金曜日にね、毎週金曜の午後に来ていただいてすごく楽しく、楽しい中にもなにかいろいろ発見があるというかね。自分のことへの気づきとか他の人への関わり方の気づきとかね。いろいろなものをもらってますよね。はい、ありがとうございます。阿部さんはいかがですか？

阿部：私も同じような感じでコミュニケーション、あまり人と話すのが得意ではないのでそういうコミュニケーション能力を向上というか、高められればいいなあみたいな感じで思っています。2回目来る時って、今のコミュニケーション授業って最初の時ってそんなに無かったですよね。

大山：はい、そうですね。違う形でね。

阿部：全然違う感じだったので。自分の中のどういう感じの性格を、性格というか、何ですかね、性格でいいんですけど。

大山：自分の感覚。

阿部：そうです、そうです。調べられるっていうものをやってっていうのが無かったので、

それを見られるっていうのはすごい大きいかなっていうのは。こういう人間だったんだっていうのはちょっと分かったかなっていうのは思いますね。

大山：エゴグラムのことでしょかね。

阿部：そうですね、エゴグラムでしたね。

大山：そうですね。あのグラフみたくなってるのでね、自分の持っている5つのエネルギーをね、どんなところにねエネルギー、力を入れて生きているかっていうかね、日々過ごしているかなっていうのがその5つで分かってくるのですよね。それってグラフになることで客観的に見れるというか、自分を。

阿部：そうですね。

大山：自分のことってなかなか分からないですからね。

木村：分からないですよ。

大山：自分ってこんなところに力をいれてたのかっていうのがね、分かるからこそちょっとその力を抑えてみようかとか、こういうところにも力を発揮した方が、エネルギーかけた方がいいのかなとかっていうのが分かってきますよね。

阿部：そうですね。

大山：エゴグラムは何ヶ月か経ってまたやってみると変わってたりしますよね、どんどん。

木村：そうなんですよ。

阿部：そうなんですよ。ぼくはまだ1回目なので。

大山：あ、そうなんですよ。

阿部：1回目だから分からないんですよ。

大山：ちょっと楽しみです、またね、はい。

阿部：楽しみですね、はい。

大山：変わっていくことに自分もそれが楽しみになってきたり、なにかだんだん過ごしやすくなっていくっていいですか、日々生活するのが楽になっていくっていうか、変なところに力を入れないで生きていけるというか、段々そういう風に皆さん変わっていくのを私たちもやっているうちにそういうのを。

赤坂：そうですね。

大山：感じてるのですよね。なのでちょっと次回のエゴグラムもね、楽しみにしていただければと思います。

阿部・木村：はい。

大山：はい、ありがとうございます。ちょっと早いのですがけれども、木村さんなにかリクエストいっていいですか。

木村：大丈夫です。

大山：持ってきていただいたのはどなたの曲でしょう。

木村：Perfume の曲で「FLASH」です。

大山：「FLASH」という曲ですか。

木村：はい。

大山：はい、ちょっとでは Perfume へのエピソードっていうか、好きなのですよね。それをちょっと先にお話してもらってもいいでしょうかね。

木村：Perfume が好きになったのは、Perfume の「ポリリズム」という曲が世に出てからなのですがけれども、その時にこの曲はすごいカッコいいなあとあって、そこから遡っている色々な曲を聴いたのですけれども。

大山：あ、そうなのですね。

木村：かっこいい曲が多くてちょっと違うなあと。あとダンスですね。

大山：あー、かっこいいですね。女性だけドキドキで。

赤坂：うーん。

木村：綺麗でハマりました。

大山：なにか可愛らしいけど大人の魅力もあるし、ダンスもいいしね。いいですね。

木村：最初の頃はあれでも子供っぽかったのですよ。

大山：あ、そうなのですか。

赤坂：熱い。

大山：熱いですね。長いですね、ファン歴。

木村：ファン歴長いので。

大山：長いですね、分かりました。ではかけてもらってもいいでしょうかね。ではもう1回曲名お願いします。

木村：Perfumeで「FLASH」です。

大山：3時からお送りしています、札幌ラジオ通信。今日のゲストは就労移行支援サービスを利用されている木村さんと阿部さんです。引き続きよろしくお願いします。

阿部・木村・赤坂：よろしくお願いします。

大山：ここからはですね、赤坂さんから質問をしていただきたいと思います。お願いします。

赤坂：はい、髪の毛跳ねてる赤坂が質問させていただきたいと思います。よろしくお願いします。さっそくまず1つ目なのですが、木村さんは札幌チャレに通われて約半年くらいで。

木村：そうですね。

赤坂：阿部さんが1年3、4ヶ月っていうことで。

阿部：はい。

赤坂：なのですけれども、利用を初めてからですね、なにか自分の中でここ変わったなあと感じる場所があれば教えていただきたいなあとと思いますので、まずは木村さんからお願いします。

木村：そうですね、積極的になったかもしれません。いろいろな物事に挑戦してみようという気持ちが強く出ていたと思います。

赤坂：いいですね、すごいいいですね。

大山：いいですね。

赤坂：では阿部さん。

阿部：そうですね、他の人から、親戚とかいろいろ集まった時間に、落ち着いたねって感じで言われる。ちょっと変わったねって。仕事に就いたからかな。仕事に就くまで子供っぽかったのでしょうか。仕事に就いて変わったねって言われてきてね。

赤坂：一度社会人っていう経験もされたこともあると思うのですけれども。

阿部：そうかもしれませんね。

大山：3年間ですね。びっちり働いてましたね。

阿部：働いてましたね。

大山：実は私も落ち着いたなあって思いました。最初に利用してくださった時と3年間しっかり働いてまた今ね利用していただいているのですけれども、大人になったと言ったらすごい失礼ですよ、上から目線ですね。本当に落ち着いたなあっていうか、そんな雰囲気は本当にありますね。

阿部：仕事終わってから札チャレにたまに行ったら、なにか大山さんに会ったりすると、すごい落ち着いた感じするねっていう風な感じで。

大山：いつもね、言っていましたよね。

阿部：言われてましたよね。

大山：なにか社会人経験すると違うなあって感じありますね、はい。

赤坂：私は最初の頃の阿部さんを知らないで、今の阿部さんしか知らないでなにか元々落ち着いた方なのかなあって思ったのですが。そういうちゃんとね、過去というか何と
いうか。

阿部：うーん。

大山：最初にいらっしゃった時は学生の延長っぽい感じはありましたね。

阿部：そうですね、延長っぽかったですよね。確かにね。子供っぽいみたい。確かに思い返すとそう思いますね。

大山：そうですね。すっかり落ち着いたお兄さんになって、はい。いくつになっただけって思わず聞いちゃう。母親か親戚のおばさんみたいな感じでね、聞いちゃうんですけど、すいませんいつもそんな感じでね。

赤坂：木村さんも積極的になったと感ずるということで、スタッフの私たちもなにか確かにそうだなあって感ずるのですけど。

木村：そうですか。

赤坂：なにかすごく笑顔っていうのですかね。

大山：うん、増えましたね。

赤坂：今まで来る道中もそうですけど、この私に対する突っ込みも増えたなっていう。なにか木村さんからなにか言うてくださることがすごく増えたなあって思っ、すごく嬉しい

なあっと思っているのですけどね。

木村：あー、そうですか。

大山：そうですね。すごいつもね、私たち終礼と言って、帰りの会、学校でいうと帰りの会みたいなのをやっているんですけど、その時もね、皆さんいっぱい話をしてくださるんですけど、木村さんもね、いつも積極的に褒め言葉をね、積極的に伝えてくださるのがね、ニコニコ笑いながら伝えてくださるのがすごい嬉しいですね、私たちもね。

木村：あー、そうですか。ありがとうございます。

赤坂：はい、ありがとうございます。では次ですね。就労移行支援っていうサービスは2年間っていう風に決まっているのですけれども、2年間同じメンバーさんと一緒に訓練を受けるって訳ではなくて、新しく入って来る人だとか就職が決まって去って行く人だとか、結構入れ替わり立ち代わりありますよね。

大山：ありますね。

赤坂：今月も結構就職が決まって出られちゃった方とかいたりとか。

阿部：そうですね。

赤坂：お二人もね、そういうことは経験されているのですけれども、そういう風にメンバーさんが入れ替わっていく中でですね、うちの札チャレの移行支援ってどんな雰囲気でしょうかね。では木村さんからお願いします。

木村：そうですね、特に大きく変わるということはないですけど、やはりちょっと寂しいなあっていう気持ちはちょっとありますけど、大きく変わったりはしてないと思います。

赤坂：そうですね。本当についこの間ですよ、就職決められたメンバーさんがね、卒業されてね、皆で寂しいねなんて言ってましたけどね。ありがとうございます。では阿部さんは。

阿部：変わるといっても確かに全員いなくなる訳ではないので、そこまで寂しいというかガラッと変わる訳ではないので。新しく来た人とどう仲良くするかみたいな感じで、ちょっとそういうのは前も入れ替わる人っていたので、それとどう話していこうかなっていうのはなかなか難しかったかなっていうのは思いますね。

赤坂：札幌の移行支援全体を通しての雰囲気とかスタッフとかも通してもいいのですが、どんな感じですかね。メンバーさんたち、スタッフのやり取りとかの雰囲気っていうのですかね。

阿部：ぼくはいいと思いますね。和やかで皆ワイワイ話しているし。大体皆さん話しているかなっていう。それぞれちゃんと1対1で話せるかなっていう風には思っていますね。

大山：そうですね。

木村：そうですね。

赤坂：木村さんも。

木村：すごくフレンドリーな感じで。スタッフがなにかすごい高飛車で。

大山・赤坂・阿部：あはは。

木村：その、指令するような感じではないので。

大山：ないですよ。

赤坂：ないですよ。

木村：同じ目線で接してくれるので、とてもやりやすいと思いますね。

大山：そうですね。

赤坂：ありがとうございます。そうですね。

大山：それね、心がけているというのですか、いつも今日どうかなあっていうかね。体調いいかなとか、朝挨拶してくれるとそういうのってちょっと分かったりするんで、なにか今日体調悪いのかなとか。なので皆さんがね、元気に「おはようございます」って言ってくざるとね、すごく安心するのですよね。

赤坂：そうですね。

大山：確かに入れ替わっていくといっても一人二人ね、卒業というか就職して、また一人二人入ってくるという感じなので、全体的な雰囲気はそんなに変わらないというかね。

阿部・木村：そうですね。

大山：新しく入った人たちもそれに慣れてだんだん馴染んでいくっていうか、和やかな雰囲気にね、慣れていくっていう感じなのでしょうかね。

阿部：そうですね。

大山：そんな感じですかね。

阿部：そうですね。

大山：はい。

赤坂：いつもね、楽しそうに休み時間とか皆さんでお話されてますしね。

阿部：たまに赤坂さんいじったりとかね。

赤坂：そうですね。

大山：いじられてますね。今日はすごかったですね、はい。

木村：今日はよかったですよ。

赤坂：今日はよかった。

大山：こんなに突っ込みがあるとは私も思わなかった。びっくりしましたね。JR の中で、何の話だろうと思ったら、すごい突っ込みがあってびっくりしました。

赤坂：これ残るのですよね。

大山：そうですね。これ、文字起こしもしているので、音にも残りますけど文字にも残りませんからね。

赤坂：本当に、はいはい、すみません。

大山：すみません、赤坂さんのお母さんも聴いていらっしゃるそうなのですみません。娘さんをいじってしまいました。

赤坂：すみません、恥ずかしい娘ですすみません。はい、では次の質問に気を取り直していきたいと思いますけれども。お二人がですね、これから就職に向かってね、これからも一緒に頑張っていこうというところなのですけれども、それぞれですねどんなこと、こんなこと頑張りたいなあっていうことはなにかありますでしょうか。では木村さんからお願いします。

木村：そうですね、就職はやはり最終目的ですけれども。近々の目的としては日商 PC 検定の excel のデータ活用の検定取得が一番の目標になりますね。

赤坂：そうですね。今、木村さん復習の時間とか使ってすごいコツコツ勉強してますもんね。

木村：そうですね。

赤坂：はい、阿部さんは。

阿部：そうですね、ぼくも同じ第一目標は就職ですよ。その次としては、やはり日商のなにか検定データ活用なり、文書作成の 3 級取ったので 2 級を取ればいいのかなどは考えてますね。

赤坂：阿部さんはスキルアップって感じですか。

阿部：そうですね、そんな感じで。

赤坂：これから 2 級。

大山：そうですね、はい。そういうね、ビジネス的な訓練もしつつコミュニケーションとかね、あとグループワークですとかね、JST っていうジョブスキルズトレーニングとかね。社会に出た時のいろいろなスキルを身につけていくとか、対人関係のことを結構ね、やはりそれで悩んでいる方は多いので、そのスキルをね。

阿部・木村：そうですね。

大山：毎回、なんていうのでしょうかね。何回も何回も重ねながらね、スキルを身につけていただければなと思いますけどね。

阿部・木村：はい。

大山：どんな仕事に就きたいかなあとかなにかありますか。今後、就職先。

赤坂：そうですね、最終目標として。

大山：探していくにあたってこのような仕事をしてみたいとか、今度はこんな仕事を探したいとか、ありますか。木村さんいかがですか。

木村：そうですね、今のところ理想としてるのは事務職がいいかなあとと思います。

大山：事務職ですね、はい。阿部さんはどうでしょう。

阿部：そうですね、なにかピッキングの仕事とかちょっと楽しかったのでそういう仕事をやってみたいなあみたいな感じに思ってますね。後はパソコンを使える感じの仕事もできればと思います。

大山：そうですね。得意なことを生かしながらですね、いろいろな仕事を探すお手伝いをね、私たちはしていければなあとと思います。

阿部・木村：お願いいたします。

赤坂：はい、こちらこそ。

大山：はい、札幌チャレンジドでは移行支援や就労継続支援 A 型の見学も募集しています。ちょっと見学してみたいなあっていう方は札幌チャレンジドにご連絡をください。電話は、011-769-0843、769-0843 です。今日は就労移行支援サービスを利用中の木村さんと阿部さんにお越いただきました。木村さん阿部さん、ありがとうございました。

阿部・木村：ありがとうございました。

大山：ではまた来週お会いしましょう。さようなら。

阿部・木村・赤坂：さようなら。